



開物成務

平成30年 5月 17日（木）発行

校長 津田 将美

そらをとびたかったペンギン

5月8日に、かいせい学級の担任による朝会が行われました。その中で、「そらをとびたかったペンギン」という絵本が紹介されました。あらすじは、以下のようなものです。

モモはペンギンだけど森が大好き。でも森の鳥と遊んでいても、一緒に飛べず、おしゃべりも上手にできない。一生懸命、空を飛ぶ練習をしますがうまくいかず、悲しくなって森を離れ、たどり着いた湖で仲間と出会い、自分を取り戻します。

そしてある日、懐かしくなった森に戻り、鳥たちに思い切って告白します。

「ぼくは…みずのなかでは…すいすい…およげるんだ。

でも…みずのそとでは…ゆっくり…ゆっくりなんだ」

鳥たちはモモという間は、ゆっくりと歩き、話すようになり、モモはもう空を飛びたいと思わなくなりました。

淡いパステルカラーの色彩でとてもやさしい絵の画像と共に、すてきなお話の紹介でした。子どもたちも真剣に聴いていました。

ペンギンだけど森が好き…。ペンギンは海で生活するものですが、森が好きなペンギンだっているはずです。森の中では苦手なことばかりだけど、それでも懐かしくなり森に帰っていくことができたのは、モモが自分自身で自分の良さ、輝く場所を見つけたからです。そして、それを大切にしていこうと一歩踏み出す勇気を持てたことで、周りもモモの良さに気づくようになります。自分と違った考え方や良さを受け入れるのもまた、勇気です。そして、その勇気と他を思う心の成長が、自分の生き方もまた、彩り豊かなものにしてくれるはずです。周りにいる誰もが、自分の生き方のお手本になるのです。

一人一人の良さは、その色も輝き方もそれぞれです。注意深く見ても、その輝きに気づかないことも多いです。でも、日々の生活の中で思わぬ時にその子なりの輝きにふれ、感動することもあります。

昨年度のしいのみコンサートでは、各学年の成長や輝く姿を見ることができました。かいせい学級でも、日々の小さな努力の積み重ねを堂々とした発表で全校に紹介していました。その姿は、一人一人の成長を感じさせるものでした。その後「かいせい学級のうた」を全校で振り付けを交えながら歌う姿を目の当たりにして、とても感動したことを思い出します。全校で、かいせい学級の子どもたち一人一人の成長を喜んでいるように感じました。

得意なことも苦手なことも自分の個性として受け止めながら伸びていこうとする心、自分と違った感性や良さを受け入れながら見習っていこうとする心、自分の成長を自覚し仲間の成長を共に喜ぶ心、そんな心を育てていくために、この朝会はとても大切な時間になりました。

体験的な学びから

2年生遠足 松田山方面

5月10日(木)

「行ってきます！！」

さわやかなあいさつのもと、元気いっぱい学校を出発しました。松田山への遠足です。かなり長い距離を歩くのですが、どの子も笑顔です。全員参加で、職員室も笑顔です。

特に、トイレをお借りした松田小学校からの道のりは登りが多く大変だったのですが、みんなしっかり登り切り、2年生になって身も心もたくましくなったことを証明してくれました。

保護者の皆様にご心配をおかけした雷雨ですが、到着してからのものであったので、収まるまではそれぞれのクラスで自然館、子どもの館の館内において、活動しながら待機することができました。幸い予定時刻には雨もすっかり上がり、計画通り学校に向かうことができました。

自然館では自然のものを使った遊びや自然とのふれあい方を学び、子どもの館では牛乳パックを使ったおもちゃ作りを楽しみ、体験的な活動を満喫しました。

開成小学校に戻ってきた2年生は、どの子も疲れた顔を見せず、ひと回りたくましくなったことを感じさせてくれました。

↓子どもの館にて→



まち comi に登録、ありがとうございました。

既に文書でお願いしているまち comi ですが、今年度に入って、多くの方に登録していただきました。今回の2年生のように、急な天候の変化による対応など、いち早くご家庭にご連絡することができて、学校としても連絡ツールとしてとても有効なものであると考えています。

ご都合でご登録いただけない方については、連絡網でのご連絡となりますが、必要な情報を迅速に受けることができますので、未登録の方は可能であれば是非ご登録をお願いいたします。不明な点がございましたら、遠慮なく学校(教頭 83-1616)へお問い合わせください。

6年生 日光修学旅行 5月11日(金)・12日(土)

修学旅行という大きな行事の写真としては地味なのですが、特に印象に残った2点です。



それまでの天候とはうって変わっての、穏やかな晴天の2日間でした。子どもたちは、楽しみにしていた行事の高揚感も感じさせながらも、しっかりと学び、充実した時間を過ごすことができました。

声をかけ合い自分たちで終わりにする電車の中のおやつタイム、見学地で自然や歴史を感じながら出す新鮮な感動の声、バスの中でのガイドさんとの明るいやりとり、食事の時の食器の片づけ…。どれも子どもたちと過ごすことがとても心地よい時間になってくれるものでした。

2日目の朝、部屋を回ると既に各部屋で布団やシーツを丁寧にたたみ始めているところでした。

「えらいねえ。よく寝れた？」

「全然、寝てない。」

「…」

そう言いながらも、布団をたたみ終わったら、部屋のスリッパをきちんとそろえ始めました。うれしくなって思わず撮った写真が上の2枚です。

とても楽しみにしていた修学旅行でしたが、そのような中でも6年間の成長の集大成をしっかりと見せてくれた6年生を、とても頼もしく感じました。

「修学旅行でのみなさんの行動は、すばらしかった。でも、それができたのは、日々の生活の積み重ね。この経験を大切にこれからの生活でも6年生らしく、下級生の見本になっていこう。」
「修学旅行で大切な思い出を作ることができたのは、おうちの人のおかげ。おみやげを渡すだけでなく、感謝の気持ちや思い出を言葉で伝えるようにしよう。」

解散式での学年主任の根岸先生の言葉が、心にしました。全員参加の修学旅行、きっとすばらしい思い出として6年生の心に残り、自分たちの成長を自覚し、今後全校の見本となってくれることと思います。

保護者の皆様のご支援、ご協力、ありがとうございました。